

駿河湾の深海魚 (21)

ハダカイワシ (その1)

久保田 正・佐藤 武



図 1. ハダカイワシ
サクラエビ網混獲 体長：132.5mm
左上は頭部（体長：106.0mm, ♂）, Nafpaktitis(1978) から引用

深海魚として知られるハダカイワシ (*Diaphus watasei*) は、ハダカイワシ目、ハダカイワシ科、ハダカイワシ属の1種です(図1)。本種の和名はハダカイワシであり、目、科、属それぞれのレベルにもハダカイワシの名が付けられています。このことから本種は、本魚類群を代表する1種であることが判ります。日本近海産の本科魚類のうち、本種ハダカイワシを除くとすべての種類の和名には、〇〇〇ハダカと名付けられています。

また、本種の体側にある鱗は剥がれやすく、網で獲れた個体の鱗がほとんど無い状態なので“裸鱗”の名に由来しています。体長17cm位まで成長し、大型種です。ハダカ”イワシ”と呼ばれていますが、イワシの仲間とは分類学上は類縁関係はありません。

日本近海産の本種は、日本の魚類図鑑や報文では *D. coeruleus* と記載されていました。その後、分類学的研究が行われた結果、別種であることが判り、現在は改められて *D. watasei* となりました (Kawaguchi and Shimizu, 1978)。両種の形質の眼の前方下方にある鼻部腹側発光器 (Vn) と鰓蓋骨の形状に違いが見られます。

本種の英名は、headlight fish または dark blue と呼ばれ、ハダカイワシ科魚類の総称としては、lantern fish と呼ばれます。日本産の本科魚類の中でハダカイワシ属に含まれる種数が最も多く33種です(次いでトンガリハダカ属が11種)。

本種は、大陸棚および大陸棚斜面上に普通に分布し、相模湾から東シナ海・フィリピン東沖

の東南アジア海域さらにインド洋(アフリカ大陸東海岸)などから報告されています。生息水深は、100~2000m層から知られ、駿河湾では昼間300~600m層に生息して、夜間に100m層付近に上昇し、日周鉛直移動することが知られています。夜間中層上層群のグループに属しています。湾内のサクラエビ漁業ではサクラエビと共に混獲

される代表の1種です。

また、本種の体側にある発光器の位置や配列の模式図は、ハダカイワシ属の代表としてススキハダカ属の模式図と共に図鑑や論文に採用されています。本属の魚類には、他の属に見られる尾柄部の上・下部にある二次性徴の発光腺はありません(発現しません)。その代わりに、眼の回りにいくつかの発光器を有し、成体個体のどの種類でも雄の発光器は良く発達しています。

本種は、海洋の高次生産者である多くの哺乳類、海鳥類、外洋性大型魚類や陸棚上の底魚類などに捕食されています。その食性研究あるいは生物群集を研究する上で重要な生態学的知見となりますが、近年胃内に残されている耳石の形状によって、北太平洋西部海域産の本科魚類の種の識別が可能となりました。左右1対の耳石は、その存在が判り易く取り出し易い魚類群です(図2)。

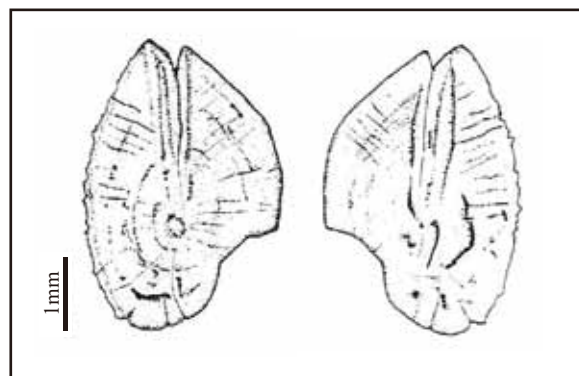


図 2. ハダカイワシの耳石. 左: 外側 右: 内側.
窪寺・古橋(1977) から引用